

## 【阪神淡路大震災時における学校再開までの動き】

神戸市教員（臨床心理士）古川香世

私が当時勤務していた中学校は、震度7を超えたといわれる神戸市灘区に位置し、唯一無事だった建物は平屋建ての武道場のみ（一部損壊）で、他の校舎は全壊・半壊の判定を受ける状況でした。校舎が危険な状態であるにも関わらず、震災当日に800名の避難の方々が入っていました。生徒の死亡は私が担任していた1年生の男子1名、親や祖父母を亡くした生徒は全校で数名ありました。

記憶している範囲で学校再開までの流れを記してみます。

- 
- |          |           |  |
|----------|-----------|--|
| 1月17日（火） | 兵庫県南部地震発生 | 発生直後から避難の方々が続々と集まる。<br>電車で30分かかる地域に住んでいた私は出勤できず。<br>昼頃、学年の先生からの安否確認の電話で、クラスの男子生徒1名が亡くなったことを知らされた。  |
| <hr/>    |           |  |
| 1月18日（水） | 瓦礫の中を出勤   | 近所の方に自転車を借りて、神戸市の西の端から灘区まで2時間かけて出勤。亡くなった生徒の自宅付近に行き、道中の花壇から摘ませていただいた花束を供える。帰宅できずに、崩れかけた職員室に数日間宿泊することになる。その間は避難所の運営が軌道に乗るまで、その業務に専念することとなり、電話が通じにくいこともあり、生徒の安否確認が後手後手になってしまっていたと記憶している。  |
| <hr/>    |           |  |
| 1月25日（水） | 安否確認の集合   | 校区内に「来られる人は来て下さい」の貼紙を掲示し、亀裂の入った運動場に、被災後初めて全校生を集めた。本人と家族のケガの有無や居場所の確認、制服の有無、学用品や教科書等の有無などを調べた。時間的に子どもたちの話をゆっくり聞く余裕はなかった。<br>1月末まで休業、次回の登校に関しては、校区内の掲示を注意して見るように伝えた。全体が解散した後、うちのクラスだけ残して亡くなった生徒の話をする。「噂では知っていたけれど、先生の口から聞いて本当だとわかった」という子が多かった。 |
| <hr/>    |           |  |
|          | 葬儀への参列    | 神戸市内では不可能な状況であったため、三田市のお寺へ向かう。本来ならクラスの全員が参列して送るはずであるが、交通事情の悪さ等もあり、4名だけしか連れて行くことができなかった。<br>なお、亡くなった生徒の家族とはこの時に初めて再会している。珍しい苗字であったため、神戸市の電話帳に6～7件しかなかったことが幸いし、片っ端から電話をしていく中で、葬儀の日時と場所を把握することができた。   |
-

|          |           |  |
|----------|-----------|--|
| 1月26日(木) | 学級通信再開    | 前夜に他地方の電力会社による復旧工事のおかげで、学校がある一角に電気が通じたため、学級通信を再開。所在のわからない生徒には自宅が瓦礫の山であっても、その場所にガムテープで貼り付け、校区外に一時避難した生徒には郵送(料金が無料の措置を利用)で送った。学校に避難していたり、自宅で過ごしている生徒たちの手助けが大きかった。後には子どもたちの手で学級通信を書いたこともある。   |
| 2月1日(水)  | 学校集合      | 運動場に3学年集合。全校生約800名のうち、この時点で約100名が転出または仮転出しており、籍が残っていても諸事情により出席できない生徒も多かった。実際に来られたのは3分の2に満たなかった。校長より亡くなった生徒の話があり、出席していた生徒みんなで黙祷を捧げた。その後、「学校は避難所になっているが避難している方々の生活を優先させること」、「みんなでまた“ゼロからの出発”をしようということ」、翌週より隔日で短時間ではあるが授業を再開することが伝えられた。<br>※使用できる教室の数が限られていたので、3年生のみ「入試」「卒業」を控えているため、毎日登校。個別懇談も実施。<br>1, 2年生は、3年生の合間をぬって隔日で、2時間ずつのプリントを中心とした学習を行った。 |
| 2月8日(水)  | 1年生の授業再開  | この日は1校時学年集会、2校時は学活。学活では書きたくないことは書かなくてもいい、書ける範囲で自分たちの体験を記しておこうと呼びかけ、全クラスで震災体験作文を書かせた。   |
| 2月10日(金) | 1年生の学習再開  | 五教科のみ、1日に2教科ずつのプリント学習を始める。実技教科の教師も含めて、学年教師全体で全クラスを回った。人数は減っていたが、敢えてクラスはクラスのまま、合体させるようなことは避けた。日番(日直)の業務、清掃活動も再開させ、可能な範囲で平時の状態に近づけるようにした。  |
| 3月6日(月)  | 授業拡充      | 隔日ではあるが、1日の授業数が3時間になる。   |
| 3月10日(金) | 「卒業生を送る会」 | 例年、大きなホールを借りて半日かけて行っていた行事であるが、この年度は運動場にて1時間未満という簡素化した形で実施した。国際教育文化交流協会によるボランティアでマジックショーが開かれた。(…と記録に残していますが、私の記憶からはすっかり抜けています)  |

|              |   |
|--------------|---|
| 3月14日（火） 卒業式 | <p>中学校より山の手にあり、被災の軽かった私立の女子校の講堂をお借りして、被災前から予定されていた日に卒業式を行うことができた。</p>   |
| 3月24日（金） 終業式 | <p>午前中に終業式。午後には、クラスの亡くなった生徒を“天国に送る会”をクラスの生徒の企画・運営にて行った。クラスの保護者の方も献花や祭壇の準備に奔走して下さった。所属していた部活動の部員が参加してくれて、滋賀や大阪に仮転出していた生徒も転出先の終業式を終えて駆けつけて来た。</p>   |
| 4月以降         | <p>運動場と近くの公園に建設された仮設校舎にて、通常に近い形で学校が再開されることになった。</p> <p>部活動をする場所がない中、可能な学校が声をかけてくれて運動場や体育館を使わせてもらったり、公的な施設を開放していただく等、困難な状況の中ではあったが、部活動も再開された。</p> <p>校舎は、唯一一部損壊であった武道場をのぞいては全部取り壊され、建て直しとなった。</p> <p>完全に校舎が完成したのは、被災から4年目の秋だった。それまでの間は、仮設校舎での生活となり、運動場にテントを張っての入学式、校区内の小学校を借りての卒業式など不自由が続いた。</p> |
| 2004年1月16日   | <p>被災から9年目にして、亡くなった生徒を偲ぶ植樹式を、当時のクラスの生徒の企画・運営にて実現することができた。学校の許可をいただき、学校の敷地内の一角に、春の到来を告げると言われているコブシの木が植えられた。</p>  |